

解剖訓蒙

脈管論

十二

解州府志



解州府志

卷之三

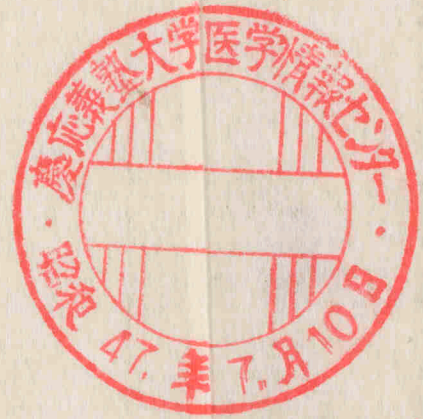
文和

文和



491.1
Ka-2
12

No. 789



富士川文庫

2439

解剖訓蒙卷之十二

米利堅 解剖學教頭約瑟列第著
日本 文部大助教横井信之譯

脉管論

静脉

静脉ハ、八個ノ大幹及ビ其諸支ヲ總括セシ者ノ

名称ナリ、之ヲ左ニ列ス

冠静脉 コロナリハ、數支ヲ以テ、血液ヲ心ノ壁面

ヨリ聚取シ、心ノ右房ニ歸納セシム

上下大静脉 ソペリオル、エンボ、ハ、亦タ數支ヲ以

テ、血液ヲ全身ノ諸部ヨリ娶取シ、心ノ右房ニ歸納セシム、

門脉ル、バルターハ、腸胃、脾、肝等ヨリ受原シ、湊合シ

テ、一幹ト為リ、肝ニ入り、復々細分シテ、他ノ諸織

支ト為レリ

肺静脉ル、ポルモンハ、其數四條ナリ、兩肺ヨリ新

鮮血ヲ受ケ、心ノ左房ニ歸納ス

冠静脉ル、コロナリ

冠静脉ル、コロナリハ、心ノ尖端ヨリ起リ、室ノ前縦溝ヲ上リ、

次ニ左横溝ヲ廻リ、心ノ後部ニ達シ、右房ニ入テ

甲
ウチ、コロナリ
ウチ、コロヂス、マグナ

田
ウチ、コロヂス、メシ

乙
ウチ、バルナ

丙
ウチ、コロヂス、ミミ

開口ス蓋シ辨ヲ具有セリ其經過中ニ兩室及ヒ

左房ヨリ心支ル、カヲ受ケリ

後心静脉ル、ポスハ亦心ノ尖端ヨリ

起リ後部ニ於テ兩室ノ間ヲ上リ冠静脉ニ會終

ス其經過中ニ兩室ヨリ心支ル、カヲ受ケリ

前心静脉ル、アハ屢ニ條ニシテ心ノ

前部ヨリ右横溝ヲ廻リ後方ニ向ヒ亦冠静脉

ニ會終ス其經過中ニ右房及ヒ室ヨリ心支ル、カ

クバヲ受ケリ

以上三静脉ノ外別ニ許彥ノ織小ナル心静脉ル、カ

ハテ開口ス
アリテ右室ヨリ上行シ各別ニ右房ニ

上大静脈

ルツカペリオ

上大静脈ハ大幹ニシテ頭頸上支及ビ胸壁等ノ
數静脈ヲ領収ス其位置大動脈弓ノ右側即チ右
肺ノ根前ニ在リ其始端第一肋軟骨ノ後部ニ在
リテ二條ノ無名静脈ノ湊合ニ由テ造成スル者
ナリ漸次ニ下行シテ奇静脈ヲ受ケ心ノ右房底
ノ上部ニ終ル此幹大動脈弓ニ比スレハ稍ヤ細
小ニシテ且ツ無辨ナリ

甲
ウチカハソペリオル
ウチカハデセンデンス

無名静脈

イソノミナ
タバインス

無名静脈ハ各側共ニ一條ニシテ胸鎖關節ノ后
部ニ在テ内頸静脈ト鎖骨下静脈ノ湊合ニ由テ
造成セリ而テ右無名静脈ナレフトインノミハ同
名動脈ノ前面ヲ下リ左無名静脈ナレフトインノ
ハ稍ヤ長クシテ弓頂發起ノ動脈前ヲ横行シ右
側ニ至リ左右兩管相會結シテ即チ上大静脈ト
為レリ

此静脈ハ左右共ニ無辨ナリ而メ後ノ造成静脈
ノ外内乳静脈脊椎静脈下甲状静脈及ヒ屢々左上

肋間静脉ヲ領収ス

内乳静脉

マインテル、ナール、マムハ、二條ニシテ、同

名動脉ト伴行シ其起原ハ内乳動脉ノ末稍ニ於

テ其細分支ノ數ニ適セル、細絡ヲ會収シテ成レ

リ而テ漸次ニ巨大ト為リ、遂ニ無名静脉ニ會結

シテ終ル左側ノ者ハ、屢上大静脉ニ會結ス、信之按ス

ルニ、左側ノ者ハ、恐クハ右ノ字ノ誤リナラン

背推静脉

ウユル、ベインラハ、小管ニシテ、背推動脉ニ

伴フテ、頸推ノ横突起ヲ穿行シ其原衆支ヲ以テ、

後頭ヨリ起リ、頸部ヲ下降スル間ニ、近傍ノ諸筋、

甲 ウチママリイニルナ

乙 ウチマルテブラリス

及ヒ脊髓静脉洞ヨリ他支ヲ受ケテ遂ニ無名静

脉或ハ鎖骨下静脉ニ終ル

下甲狀静脉

イロイト、ハ、甲状腺ニ於テ許多ノ

小支ヨリ起リ咽頭喉頭胃管氣管等ヨリ衆支ヲ受

ケテ漸次ニ巨化シ遂ニ無名静脉ニ終ル稀ニ兩

側ノ二條侶合シテ一管ト為リ氣管ノ前面ヲ下

リ左無名静脉ノ真中ニ終ル

頭及ヒ頸部ノ静脉

頸静脉

ベインスルハ其數二條ニシテ頭頸ノ主

幹ナリ而テ頸側ニ布置シ其一條即チ内頸静脉

甲 ウチロイデアインペリオル

乙 ウチジユギラリス

甲
ウチアホブレカチカ

ギラテレルベールンハ所謂手足ノ動脈ニ伴行ス
 ル深在ノ静脈ニ相當ス乃チ頭體及ヒ眼窩ノ内
 部ヨリ血液ヲ回導セリ常ニ頭體顔面及ヒ頸ノ
 外表諸部ヨリモ血液ヲ
 多分ニ外頭静脈エキステルナールンハ手足ノ大
 受収ス表在静脈ニ相當シ頭體ノ外部及ヒ尋常面部頭
 部ヨリ血液ノ一分ヲ受収ス
 頭頸ノ諸静脈ハ頭静脈ヲ除クノ他總テ辨ヲ具
 有セス

内頭静脈

ギラテレルベールン

内頭静脈ハ球狀ノ擴張ヲ以テ頭體ノ頭静脈孔

ヨリ起リ、厚腦膜諸竇ノ血液ヲ收納シ、内頸、及ビ
 普通頸ニ動脈ノ外側ヲ下リ、遂ニ鎖骨下静脈ト
 會合シ、乃チ無名静脈ト為ル其頸部ヲ下行スル
 間ニ、凡テ顔面、舌、咽頭、上甲状、及ビ後頭等ノ静脈
 ヲ領セリ、時トシテハ、顛顚静脈ノ一半、或ハ全數
 ヲ受クルコトアリ、此静脈ノ大ナハ、左右齊シカラ
 ス、而テ外頭静脈ニ比スルモ亦然リ、然レモ其大
 ナル者、右側ヲ以テ常トス、且ツ屢、左右兩管、其領
 セル支數モ、亦々差等アリ、此脉、其下部ハ、屢、多少
 ノ擴張アリ、且ツ末端ニ於テ、一對ノ辨ヲ具有ス

甲 サイニユス、ジュラ、マトリス

厚脳膜諸竇

サイニユス、オルフ、ゼイ、デラ、マトリス

厚脳膜竇

ハ、静脈ノ管ニシテ、厚脳膜ノ層間ニ形

成セララル、裡面ハ、静脈内層ノ連続ニシテ、内膜ヲ

以テ被覆ス、諸竇皆ハ、瓣無ク、且ツ伴行ノ動脈無

シ、而テ腦、腦膜、頭蓋骨及ヒ眼窩ノ静脈ヲ領收シ、

遂ニ内頸静脈ニ輸送ス、以下ノ諸竇是ナリ

側竇

サイニユスハ、頭腔ノ各側ニ在ル大竇ニシ

テ、他ノ諸竇ヲ湊合ス、其始端ハ、枕骨ノ内結節ニ

當ル諸竇聚合

コンフ、ゼイ、サイニユス、オト稱スル處ニ

シテ、外方ニ向ヒ、枕骨ノ横溝ニ沿ヒ、漸次ニ下内

乙 サイニユス、タラシラ、シユス

丙 コンフ、ゼイ、サイニユス

甲 サイニユス、ハルキホルミス

竇及ヒ後枕骨竇ニ由テ、形成セラル者ナリ

上縦竇

ジソ、パル、オルフ、ロシ、ギテニハ、單管ニシテ、頭腔

ノ中線ニ位シ、額骨鶏冠ノ底部ヨリ起リ、大脳鎌

状中隔ノ凸面ニ沿ヒ、後方ニ進ミ、所謂諸竇聚會

ニ達ス、管形三角ニシテ、前方ヨリ後方ニ向ヒ、漸

次ニ大成ス、蓋シ頭腔中線ニ浅溝ヲ形成スルハ

之ガ為メナリ、其經過中ニ上中脳静脈ヲ領セリ

下縦竇

テイニシ、ナハル、カイニユムハ、亦タ單管、且ツ纖

乙 サイニユス、ハルキホルミス、コホル

甲 サイニユス、レクチユス

小ニシテ、大脳鎌状中隔ノ四面ニ沿ヒ、後方ニ走リ、直竇ニ終ル、

直竇サイトライト、ハ、亦々單管ニシテ、頭腔ノ中線

ニ位シ、大脳鎌状中隔ト、大小脳中隔ノ連結線ニ

走り、而テ諸竇聚會ニ終ル、其管形三角ニシテ、始

端ハ、下縦竇及ヒ脳室静脈ヲ受テ、漸次ニ經過ス

ルニ隨ヒ、大脳及ヒ小脳ノ近傍部ヨリ、數條ノ静

脈ヲ領セリ、

蜂窩竇カヘルニス、ハ、大積ナル短竇ニシテ、粘液

窩ノ兩側ニ位シ、其内位ハ、纖維ノ絲索、即チ厚腦

乙 サイニユス、レクチユス、タキキリユム

甲 サイニユス、シルキコラリス

膜ノ發芽ニ由テ、間錯聚結シ、恰モ蜂窩ノ如シ、而

テ尚オ著明ニ特異ナル所ハ、其壁内ニ、眼神経、滑

車神経、動眼神経、外轉神経、及ヒ内頸動脈等ヲ含

有セリ、然レヒ裡膜ニ由テ、其内位ト障隔ス、其前

部ハ、眼静脈ヲ受ケ、後部ハ、岩状竇ト相通ス、
環状竇ル、シルキユラリス、ハ、粘液体ヲ圍擁シ、左右ハ蜂
窩竇ト相通ス、
上岩状竇ソ、ペリオル、サイニユス、ハ、細管ニシテ、蜂窩
竇ヨリ展延シ、岩状部ニ附着セル、大小脳中隔ノ
縁ニ沿ヒ、而テ側竇ニ接続ス、

乙 サイニユス、デシリ、ラテリス

甲 サイニス、ペトシニス、インシケル

乙 サイニス、バシラリス

丙 サイニス、オキビタリス

下岩状竇 ロインヘリオル、ペトハ、亦タ峰窩竇ヨリ
展延シ、岩状部ノ下縁ニ沿ヒ、後方ニ進ミテ、側竇
ノ末端ニ會合ス、

前枕骨竇 ピアンテリオル、オッキハ、間、一對ニシテ、枕

骨ノ基礎突起ヲ横行シ、下岩状竇ノ間ニ銜居ス、

故ニ又々横竇ト云ヘリ、

後枕骨竇 ピアンテリオル、オッキハ、亦屢、一對ニシテ、

小静脈ヲ以テ、枕骨孔ノ兩側ニ起リ、小腦鎌状中

隔ノ凸面ニ沿ヒ、上行シテ諸竇聚會ニ終ル、

腦ノ諸静脈

甲 ヲセ、ラリス、ソペリオレス

乙 ウ、ゼ、メジアナ

丙 ウ、ゼ、インヘリオレス

腦ノ静脈ハ、腦實質ヨリ發起ノ細絡、薄腦膜ニ於
テ間錯シ、緻網ヲ結ヒ、漸次ニ會湊シテ、大支ト為
リ、腦表ノ數溝ニ沿ヒ、近隣ノ厚腦膜竇ニ連接ス、
以下之ヲ辨説ス、

上腦静脈 ラソペリオル、ベールンセス ハ、大腦半圓ノ外面

ヨリ起リ、斜ニ厚腦膜ヲ穿過シ、前方ニ向テ上行

シ、上縦竇ニ開口ス、

中腦静脈 ラミシアル、ベールンセス ハ、縦溝ノ兩側ヨリ

上行シ、上縦竇ニ達ス、

下腦静脈 グインラール、ベールンセス ハ、各、近隣ノ諸竇ニ

開口ス、即チ其大脳前部ノ支ハ峰窩竇、後部ノ支ハ側竇及ヒ直竇中間ノ支ハ上岩状竇ニ於テスルナリ、

甲
ウ、セ、レ、ブ、リ、イ、ニ、テ、ル、ナ
ウ、ガ、レ、ニ、

内脳静脈

ダイランテル、ナール、セル

ハ、其數ニ條ニシ

テ、後方ニ向ヒ、第三脳室ノ脈絡膜膜ニ薄ノ真

中ニ走り、侶合シテ、短幹ト為リ、或ハ各々分離シテ

直竇ノ始端ニ終ル、其經過中ニ、脈絡叢線状体、視

神経末、大小脳中隔及ヒ脳脚等ヨリ、數支ヲ受ケ

リ、

乙
ウ、セ、レ、バ、リ、ソ、ハ、リ、オ、レ、ス

上小脳静脈

ルソペリカル、セルベ

ハ、直竇ニ終ル、

甲
ウ、セ、レ、リ、イ、ニ、テ、ル、ス

下小脳静脈

ルイランヘル、セルベ

ハ、グイロリ橋

及ヒ延髄等ノ諸支ト共ニ、下岩状竇、後枕骨竇、或

ハ側竇等ニ終ル、

版障及ヒ脳膜静脈

バジフロイスク、ハ、頭骨ノ

海綿組織内ニ分

布シ、頭蓋、眼窩、及ヒ厚脳膜ノ静脈ト相通ス、又或

ハ、厚脳膜竇ニ接続ス、

脳膜静脈

ルメニンジニア、二條ニシテ、同名ノ動

脈ニ伴行シテ經過ス、或ハ厚脳膜竇ニ終ル、ア

丙
ウ、メ、ニ、ン、ヂ、

大脳膜静脈

アダレル、ト、メ、ニ、ン、ジ

ハ、内脰静脈及

ヒ、内脰静脈及

ヒ、内脰静脈及

丁
ウ、メ、ニ、ン、ヂ、マ、ジ、ナ

大脳膜静脈

アダレル、ト、メ、ニ、ン、ジ

ハ、内脰静脈及

蜂窩竇ニ終ル

眼静脉

クオ、プサルモ

眼静脉ハ内皆ヨリ起リ、顔面静脉ト合吻ス其布

置、殆ト眼動脉ニ隨行シ、眼窩ノ内部ニ沿ヒ、後方

ニ向ヒ、蝴蝶孔ヲ穿過シ、蜂窩竇ニ終ル

外頰静脉

デキス、テル、ナール

外頰静脉ハ、内頰静脉ヨリモ、頰ル纖小ニシテ、顚

顚、頰静脉ノ一部、或ハ全部ト、耳後静脉トノ結合

ヨリ成レリ、或ハ唯々耳後静脉ノ連幹タリ、又或

ハ、顔面静脉ト結合シテ成レリ、顴角ノ近傍ヨリ

甲
ウ、オ、プ、ザ、ル、ミ、カ

乙
ウ、シ、ユ、キ、ラ、ス、エ、キ、ス、テ、リ、チ

鎖骨真中ノ后部ニ至リ、遂ニ鎖骨下静脉ト會合

シ終ル此脉、尋常、經過ノ真中ニ於テ、一辨アリ、又

下端ニ於テ、他辨ヲ具有セリ其起根支ノ他ニ、左

ノ四支ヲ領セリ

前頰静脉

ギ、ア、ユ、テ、リ、ル、ヲ、ベ、ル、ジ、ン、ユ

ハ、頰ノ前部ヨリ來

後頰静脉

ギ、ポ、ス、ニ、リ、オ、ル、ジ、ン、ユ

ハ、頰ノ后部ヨリ來

上肩胛静脉

テ、ソ、ノ、ラ、ベ、ル、カ、ン、ピ、ユ

ハ、同名動脉ノ經過

甲
ウ、シ、ユ、キ、ラ、ス、エ、キ、ス、テ、リ、チ

乙
ウ、シ、ユ、キ、ラ、ス、エ、キ、ス、テ、リ、チ

丙
ウ、シ、ユ、キ、ラ、ス、エ、キ、ス、テ、リ、チ

甲 乙 丙 丁

横頸静脈ルタランスカスルペルセハ亦々同名動脈ト伴行ス

乙 丙

顔面静脈ハバシロン

顔面静脈ハ、凡ソ顔面動脈ノ經過ニ順次ス然レ

丙 丁

内背ニ起原ス之ヲ丙内背静脈アビギラト稱ス

丁 乙

生活間ニ屢皮下ニ浮起ニテ透見シ此部ニ於テ眼静脈ト合吻乙又屢額静脈フロシタヲ受納

額静脈ハ顛顛静脈ト交錯シ額ノ正中ニ下リ鼻

根ニ達シ屢他側ノ同名静脈ト合吻乙又屢眼静脈ニ會合ス

顔面静脈ハ、腮角ノ近傍ニ在テ屢内頸静脈ニ終リ或ハ顛顛腭静脈ト都合シテ外頸静脈ニ接続ス又或ハ外頸静脈ノニ終ルヲアリ其經過中

ニ左ノ諸支ヲ領セリ乙上眼窩静脈タソプラオロンハ、眉線上ニ走り上眼

瞼ヨリ乙上眼瞼静脈グソペリオルハ、鼻側ヨリ來ル

鼻静脈ベナサハ、下眼瞼静脈グイランヘリオルハ、下眼瞼ヨリ

甲 ムマッセトリカエト、ヒ
ユカリス

乙 ムラビアリス

丙 ムフメタリス

丁 ムンブマキシルリス

戊 ムバラチナ

己 ムテムポテリス

來ル

咬及頰筋静脉 ビマカセトベリク、エニド、ハ、頰ヨリ來

唇静脉 ベラビニスル、ハ、唇ヨリ來ル、

腮下静脉 ソクベメトンダハ、腮領ヨリ來ル

下腭静脉 ソクベマキンシラハ、下腭腺ヨリ來ル、

口蓋静脉 ベラニハ、軟口蓋及ヒ扁桃腺ヨリ來

顳額静脉 テムポライ

顳額静脉 及ヒ其支別ハ、凡テ同名動脉ノ經過ニ

甲 ムテムポテリス、ムルヒ
シアリス、シテオトル

隨行ス、然レ迂曲稍、少シ、即チ前顳額静脉 アニテ

ト合吻シ、後顳額静脉 テリス

ト合吻シ、普通顳額静脉

ハ、耳下腺ニ竄入シ、下腭ノ頸部ニ於テ内腭静脉

ト結合シ、乃チ顳額腭静脉ト為ル其經過中ニ、左

ノ諸支ヲ領セリ

關節静脉 アトキニスラハ、下腭關節ノ後部、即チ

静脉叢ヨリ來ル

耳前静脉 アテリオトル、オハ、耳前ヨリ來ル

中顳額静脉 トドベラハ、同名動脉ノ經過ニ

解用川

卷之十二

七

丁 ムアソリキヲリス
プロハローニダ

丙 ムアチキヲリス

耳前静脉 アテリオトル、オハ、耳前ヨリ來ル

甲 文タラシクスルニシ

順次ス
横行顔面静脈シタラシクスルニシハモ、亦同名動脈ニ
隨行ス

乙 文パロチダイ

耳下腺静脈ベロチダイハ、耳下腺ヨリ來ル

内腭静脈

イニテルナールマ
キゼラールマ

内腭静脈ハ、翼狀筋間ノ静脈叢ヨリ起リ、内腭動

丙 文キシリスイン

脈ト接居シテ、其伴行静脈ヲ領ス此脈ハ、一箇ノ
短管ニシテ、下腭頭ノ後部ヲ過キ、耳下腺内ニ於
テ顚顚静脈ト吻合シ、又或ハ一對ニシテ、共ニ顚
顚静脈ニ結合シ、又或ハ一支、顚顚静脈ト結合シ、

甲 文タラシクスルニシ

他支ハ、下テ腭角ニ至リ、内頸静脈ニ終ルヲアリ

顚顚静脈

ラポルマキセ

顚顚静脈ハ、顚顚静脈ト内腭静脈ノ一部、或ハ

全部ト、結合セシ者ニシテ、外頸動脈ト伴行シ、耳

下腺ヲ穿過シ、耳後静脈ニ結合シ、以テ外頸静脈

ト為ル、或ハ分歧シテ、其一半ハ、外頸静脈ヲ助成

シ、一半ハ、顔面静脈ト結合シテ、内頸静脈ニ連結

ス、又或ハ屢、全部、顔面静脈ト結合シテ、内頸静脈

ニ終レリ

耳後静脈

リスチルオ
リキテール

耳後静脈

甲 亨リキスススス

角音言蒙

卷之十二

十三

耳後静脈ハ、同名動脈ノ經過ニ順次シ、顛顫腭静脈ト結合シ、其一半或ハ全部、外頸静脈ニ終ル、然レハ顛顫腭静脈ト顔面静脈ト結合スルモ、ハ耳後静脈ハ、外頸静脈ノ真ノ起根ヲ為セリ

乙 ヲオッキヒターリス

枕骨静脈 ルキピク

枕骨静脈ハ、同名動脈ノ經過ニ隨行シ、常ニ内頸静脈ニ終レリ、然レハ稀ニ外頸静脈ニ終ル、アリ其經過中ニ、乳頭静脈ト、ヘトインヲ受ケテ、側竇ト交通スレヲ得タリ

舌静脈

甲 ヲトケスリガ

舌背静脈

ドルサルルハ舌ノ上部扁桃腺、及

ヒ會厭等ヨリ、數丈ヲ湊合シ、舌神經ノ經過ニ隨行シテ、顔面、咽頭、或ハ内外頸静脈ニ終ル、
蝦蟇静脈 ラニハ、舌下神經ニ從テ、後方ニ走り、顔面、或ハ内外頸静脈ニ終ル、是所謂舌ノ下部ノ粘膜ヨリ、透見スル者ナリ

乙 ヲラニーン

咽頭静脈 ハルビ

咽頭静脈ハ、咽頭ノ兩側及ヒ後壁ノ静脈叢ヨリ起リ、下テ舌骨ト水平ニ位シ、而テ内頸静脈ニ終

丙 ヲパーソデア

解リ

卷之十二

十三

甲ノタイロトテカヘリタル

上甲狀静脈 ロソペリオアルタイ

上甲狀静脈ハ二條ヲ常トス其起根ハ甲狀腺ノ

上部及ヒ側部且ツ喉頭氣管等ヨリ湊合シ而テ

内頸静脈ニ終ル間又舌或ハ顔面静脈ニ終レリ

上肢ノ静脈

上肢ノ静脈ハ深淺ノ二列ニ位ス而ノ其深在ノ

列ハ動脈ニ隨行シ淺在ノ列ハ動脈ニ関セス皮

下ニ在テ各異ノ道路ヲ取レリ然レニ其末端ハ

遂ニ深在静脈ノ主幹ニ終レリ深淺ノ二列屢合

吻ニ由テ交通ス而テ其支許多ノ辨ヲ具有セリ

甲ノソブククヒア

殊ニ深在静脈ニ於テ多シ

鎖骨下静脈ハ腋ノ下静脈ノ連管ニシテ辨ヲ具有

セス其始端ニ於テ外頸静脈ヲ受納シ遂ニ内頸

静脈ト會合シテ無名静脈ト為此脉第一肋骨

ヲ超過スルキニ前不齊筋ノ着點ニ由テ鎖骨下

動脈ト障隔セリ

上肢深在静脈

上肢深在静脈ハ一對ヲ以テ腋ノ下動脈ノ他各個

ノ諸動脈ヲ擁護ス間又二條ノ静脈横支ヲ以テ

互ニ交通スルヲアリ
 上臂静脈 ヒグベラ チンアスハ、二條ナリ、其内條ハ、大ニシテ、常ニ上臂中部ノ真上ニ於テ、淺在列ノ王静脈一名貴要静脈ヲ受ケ、腋窩ニ上リテ二條侶合シ、乃チ腋アキ下静脈シラト為シ、鎖骨下通過中ニ又淺在列ノ腦静脈ヲ受ケ、乃チ鎖骨下静脈ト為シ、
 上肢淺在静脈 ソベヒ 深在ノ列ヨリモ、大且ツ多クシテ、動脈ニ伴行セス、皮下ニ在テ、許多ノ交通ヲ為シ、恰モ網狀ヲ形成シ、以テ上支ヲ圍擁ス、此脉、肥

甲 ヌユルナレス、キユタニ

乙 ヌユルナレス、キユタニ、ホステリオル

丙 ヌユルナレス、キユタニ、アステリオル

豊家ニ於テハ、淺筋莖ノ脂肪組織内ニ包藏ス、然レハ羸瘦家ニ於テハ、尋常、皮表ニ浮起シテ、徃々透見ス、シ此脉、屢、交結支ニ由テ、深在ノ静脈ト通ス、而メ末端ハ、遂ニ其主幹ニ終レリ

尺骨皮静脈 ユルナ ス、ベルニキス、ハ、其數ニ條ヲ常トス、而メ下臂ノ前皮ニ占位セリ、即チ其後尺骨皮

静脈 ホステリオル ヌユルナス、ベルニキス、ハ、手背ノ外部ヨリ起リ、下臂ノ後内縁ニ上行シ、肘窩ニ至テ、王静脈

ノ名ヲ得タリ、其經過中ニ、數條ノ吻合支ヲ以テ、橈骨皮静脈ト交通ス、前尺骨皮静脈 アニユルナス、

甲
ウバシリカ

ル、キニタニニハ、手頭ノ前面ヨリ起リ、下臂ヲ上行
 ス、ヘーレンニシ、或ハ後尺骨皮静脉ト結合シ、或ハ中静脉ト結
 合シ以テ終ル、其經過中、頻リニ後支ト合吻ス
 王静脉 ハシリカ、ハ、後尺骨皮静脉ノ連管ニシテ、
 二頭筋ノ内縁ニ沿ヒ、上行シテ、上臂筋莖ヲ穿透
 シ、亦夕上臂中部ノ真上ニ於テ、上臂静脉ノ一幹
 ト結合ス
 撓骨皮静脉 ラジアル、ベール、キニタニハ、手背ノ外側ヨリ
 起リ、下臂ノ外縁ニ沿ヒ、上行シテ、肘窩ニ至リ、腦
 静脉ノ名ヲ得タリ、其經過中、下臂ノ前後ヨリ、數

乙
ウシアリスキニタニ

甲
ウセハリカ

乙
ウメジナ

支ヲ領セリ、此脉、或ハ二條ニシテ、肘窩ニ至テ、共
 ニ結合シ、或ハ前位ノ静脉、中静脉ニ結合スルコ
 アリ
 腦静脉 ハシリカ、ハ、撓骨皮静脉ノ連幹ニシテ、二
 頭筋ノ下縁ニ沿ヒ、次ニ三角筋ト大胸筋ノ間ヲ
 上行シ、内方ニ向ヒ、鎖骨下ニ深入シ、腋下静脉ニ
 終ル
 中静脉 ハシリカ、ハ、下臂ノ前面、尺撓兩皮静脉
 ノ中間ニ占位シ、頻リニ其兩脉ト交通シ、其位置
 負數、及ヒ末端ノ形式ニ於テ、變異甚々多シ、然レ

甲又チセハリカ

乙又チセハリカ

凡一母幹ニ湊合シ肘窩ニ至テ分岐シ極ヲ為ス
 フ多シトス分岐ノ一ヲ中腦靜脈ハリジアベルシ
 ト稱ス斜ニ上外方ニ向ヒ、腦靜脈ニ會結スニヲ
 中王靜脈ジリジアベルシト稱ス、上内方ニ上リ、王
 靜脈ニ會結ス、
 中靜脈時トシテ一個或ハ數個共ニ斜管ヲ以テ、
 上内方ニ向ヒ、橈骨皮靜脈ヨリ、肘窩ヲ横行シ王
 靜脈ニ終ルヲアリ而テ其斜管ノ正中、或ハ極部
 ヨリ、更ニ一支ヲ起シ、肘窩ニ於テ上臂靜脈ト交
 通セリ

甲又チセハリカ

中王靜脈、或ハ斜管ノ内端ハ、中腦靜脈ヨリ巨大
 ナリ、故ニ尋常刺絡術ニ於テ之ヲ選擇セリ、然レ
 凡其直下ニ上臂動脈アリ、唯々ニ頭筋ノ腱ノ發
 芽ニ由テ、障隔セラレ、且ツ其上下ニ、内皮神
 經ノ貴要支アリ、注意セサル可カラス

奇靜脈 エ ジ ゴ ル ス

奇靜脈ハ、脊椎柱ノ右側ニ位ス、其起原ハ腰靜脈
 腎靜脈、或ハ下大靜脈ト交通セリ、而テ肘部ヨリ
 横隔ノ大動脈孔、或ハ其右脚ノ別孔ヲ透過シ、背
 椎ニ沿テ上リ、右肺ノ根靜ヲ超テ、前方ニ鈞曲シ

元上大静脉ニ終ル其關係左側ハ胸管大動脈及
ヒ食道アリ而テ經過中ニ左ノ數支ヲ領セリ
右肋間静脉ライト、イニテルコハ時トシテ其上
位ノ二三支共ニ湊合シ一幹ト為リ右無名静脉
ニ開口ス

食道静脉

ハ、ベ、ハ、ン、ジ、ア、リ、

右氣管支静脉

ア、ラ、イ、ト、ベ、ロ、ン、

半奇静脉

ス、ハ、ベ、イ、エ、ン、ジ、

側ニ位ス其一條即チ下半奇静脉

イ、ニ、ハ、リ、オ、ル、

ス、ベ、ハ、其起原奇静脉ノ式ノ如ク胸腔ニ入り上

甲 文へミエジゴース

行シテ背椎ノ真中ニ至リ大動脈ト椎体ノ間ヲ

横行之以テ奇静脉ニ結合シ其經過中ニ下位五

六個ノ左肋間静脉

ス、レ、フ、ト、イ、ン、

其一條即チ上半奇静脉

シ、ソ、ゴ、ペ、リ、ス、

位ノ左肋間静脉

ス、レ、フ、ト、イ、ン、

テ成レリ而テ其末端ハ左無名静脉或ハ下半奇

静脉或ハ奇静脉ニ終レリ

下大静脉

オ、イ、ン、カ、ハ、リ、

下大静脉

ハ静脉系ノ上行セル大幹トシテ下肢

骨盤及腹部ヨリ血液ヲ湊合スル者ナリ其幹

甲 文へミエジゴース

乙 カハインハナ
全 疾カ分全シテス

上大静脈及七大動脈ヨリモ、巨大ニシテ一辨ヲ
 モ具有セス其起原ハ、腰椎第四片ノ側部ニ於テ、
 普通腸骨静脈ノ會合ニ由テ成レリ、脊椎上ヲ上
 ノ大動脈ノ右側ニ位シ、横隔ノ方孔ヲ穿過シ心
 ノ右房ニ終ル普通腸骨静脈ノ他、經過中、無數ノ
 分支ヲ領セリ

下大静脈ノ諸支

中薦骨静脈 トクサクラ ハ、同名動脈ノ經過ニ
 隨行シ、下大静脈ノ始端ニ開口ス時トシテ左普
 通腸骨静脈ニ終レリ

甲 文サクヲラスメシテ

甲 文ロンバリス

乙 文スペリマチカ

丙 文キスベルマキキス

丁 文ヲバリ

腰^甲椎静脈 ベロンバルス ハ、其數、各側三條、或ハ四條
 ニシテ、同名動脈ニ隨行ス而テ其支、互ニ交錯シ、
 加之、普通腸骨静脈、奇静脈、及七半奇静脈ヲ以テ、
 乃チ静脈叢ヲ形成セリ

精^乙系静脈 スベルマテツ ハ、其數ニ條ニシテ、畢丸ヨ
 リ血液ヲ輸送スル者ナリ、各精^丙系静脈叢 スペル
 プ^レキヨリ起リ、同名動脈ニ隨行ス而テ其右側
 ノ支ハ、下大静脈ニ終リ、左側ノ支ハ左腎静脈ニ
 終ル

卵^丁巢静脈 オハリンア ハ、廣韌帶中ニ包在スル、卵巢

甲 文レナリス

乙 文カフシユリス

丙 文フレニカ

静脈叢ヨリ起リ其經過ハ前者ニ同シトス
 腎静脈ベリナハ大積ナル短幹ニシテ腎竇ヨ
 リ叢起ノ數支、湊合シテ成ル者ナリ其位置殆ト
 横行シ、而テ左側ノ支ハ稍長クシテ、大動脈ノ前
 面ヲ横行シ以テ下大静脈ニ達ス
 副腎静脈ルソハ數條ニシテ、副腎ヨリ
 起リ下大静脈、腎静脈、横隔静脈等ニ終ル
 横隔静脈ベフレハニ條ノ支ヲ以テ同名動脈
 毎トニ副行ス而テ肝静脈ノ直下ニ於テ下大静
 脈ニ終ル

甲 文ヘパチカ

乙 文、ホルター
全 文、ラクテ
全 文、フーテリナリス

肝静脈ベパハ其數兩三幹ニシテ肝ノ右截
 痕ヨリ起リ、下大静脈ヲ横隔ノ方孔ニ入ント
 スル處ニ終レリ、故ニ其丈久甚々短シトス
 門脈ルポハ大積ナル短幹ナリ、即チ其丈ケ殆ト三ノ
 門ニテ胃、大小腸、脾、膵等ノ静脈湊合ヨリ為

レシ其始端ハ脾静脈ト、上腸間膜静脈ノ會合ニ
 由テ、膵后ヨリ起リ、小網ノ右縁ヲ上リ、肝ノ横溝
 ニ入り、分岐シテ、主要ノ二條ト為リ、以テ左右ノ
 兩葉ニ分布ス此幹及ヒ肝動脈ヲ以テ肝内ニ輸

甲 文スブレニカ

乙 文セニテカスリカ

丙 ウ、コナリア
全 ウカストリカ、ハカ

丁 文カストロエ、ロイカ
テキスト

送スルノ血液共ニ混和シ肝静脈ノ扶助ニ由リ
全身ノ血行ニ送滞ス
脾静脈脾静脈ニブレニキ、ハ小支ニシテ其數同名動脈
未梢ノ分歧ニ適シ、乃チ其動脈ニ隨行シ、門脈
ニ終ル

上腸間膜静脈上腸間膜静脈テソペリオルニメセ、ハ同名動脈ニ

隨行シ、脾静脈ト會合シ、以テ門脈ノ一部ヲ成ス

冠静脈冠静脈トシ、ハ胃ヨリ起リ、脾静脈、或ハ門脈

ニ終レリ

右胃腸網静脈右胃腸網静脈ピロイ、カ、ト、ハ、上腸間膜静脈

甲 文セスチカ

乙 文セシテカスリカ

丙 ウ、コナリア
全 ウカストリカ、ハカ

或ハ門脈ニ結合セリ

脚静脈脚静脈ベシ、ハ胆嚢ヨリ起リ、亦ハ門脈ニ交

結ス

下腸間膜静脈下腸間膜静脈ニテ、ハ同名動脈ニ

隨行シ、脾静脈、或ハ上腸間膜静脈ニ終レリ

門脈、及ヒ其衆支ハ更ニ辨ヲ具有セス

脊椎柱静脈脊椎柱静脈ニシテ、ハ

脊棘叢脊棘叢ニシテ、ハ

ノ及ヒ棘狀突起ヲ包擁シ、而テ背筋ヨリ、數條

ノ静脈ヲ領収ス、又屢吻合支ニ由リ、内脊髓叢、椎

肋間、腰推、薦骨等ノ静脈、及ヒ背表ノ静脈等ト相交通ス

甲
フレキユススバイナラ
インテニユス

内脊髓叢インテニユスハ、静脈ノ交錯スル

者ニシテ、即チ網狀ヲ為シ、脊椎柱ノ管内ニ在テ、厚髓膜ト、脊椎骨ノ間ニ在リ、其數四條ニシテ、前

后ニ位ス、而テ脊椎柱ノ全徑ニ展延シ、屢横静脈

乙
クロギキチチル
アテリオル

ニ由テ、彼此互ニ相交通ス、即チ其前縦静脈アテリオル

ナル、ロミンギチスハ、椎体ノ兩側ニ位シ、椎弓ノ帶

ニ彎曲シ、以テ弓列ノ景况ヲ呈ス、椎体ニ對シ、椎

鞏帶下ニ於テ、横行ノ静脈ニ由テ、左右互ニ交通

甲
ウバシ、ウルテフリス

シ、此レニ由テ、椎体ノ内ヨリ、板障静脈ウバシ、

乙
クロギキチチナルホ
ステリオリス

スヲ受ケリ、其後縦静脈クロギキチチナルホ、

前者ヨリモ、細小ニシテ、椎弓ノ兩側ニ位シ、横行

支ヲ以テ、互ニ交通シ、又側支ヲ以テ、前者ト相通

ス

内脊椎叢ノ間錯ハ、縦横兩静脈ノ分子結交ノ數

ニ應シテ、増減アリ、此叢ハ、脊椎及ヒ其被膜ヨリ

數箇ノ静脈ヲ領シ、又椎間孔ヲ穿過シテ、椎、肋間、

腰推、薦骨等ノ静脈、及ヒ枕骨ノ静脈洞ト相通ス

普通腸骨静脈クロギキチチナルホ、

解

普通腸骨靜脈ハ、薦腸關節ニ對シ、内外腸骨靜脈ノ會合ニ由テ成レリ、右普通腸骨動脈ノ下ヲ上行シ、腰推ノ第五片ニ達シ、其中線ノ稍々右側ニ於テ、左右聚會シテ、下大靜脈ト為ル、而テ其右側ノ者ハ、左側ヨリモ短ク、且ツ直行ナリ、初メ同名動脈ノ後部ニアリ、次ニ其外側ニ廻ル、其左側ノ者ハ、同名動脈ノ内側ニ布置ス、此脈ハ、左右共ニ無辨ナリ

内腸骨靜脈 イニテルナリ

内腸骨靜脈ハ、其布置、同名動脈ノ分布ニ齊シ、唯

其后位ニ在ル、之、乃チ薦腸關節ト、一線ニ上行

シ、普通腸骨靜脈ニ終ル、臀筋、腸腰、側薦骨、鎖孔、及

ヒ坐骨等ノ諸筋脈毎ニ、二條ノ副行靜脈アリ、各

會合シテ、遂ニ單管ト為リ直ニ茲ニ會終ス、腸腰

靜脈ハ、側薦骨、及ヒ腰推靜脈ト聚會シ、屢、普通腸

骨靜脈ニ終ル、側薦骨靜脈ハ、中薦骨靜脈ト間錯

シテ、薦骨靜脈叢ヲ造成ス、而テ此叢、痔脈叢ト相

通ス、直腸膀胱陰具等ノ諸靜脈ハ、其數極テ多ク、

且ツ大ナリ、故ニ徃々大積ナル、間錯叢ヲ為セリ

痔脈叢 ヘモパルロキユスハ、直腸ヲ圍擁シ、殊ニ其下

部ニ於テ著明ナリ、而テ薦骨叢及ヒ攝護叢ト相
 通ハ又此叢ヨリ、下腸間膜靜脉、内腸骨靜脉、及ヒ
 陰具靜脉等ニ進行ノ靜脉ト、相交通ハ此叢ハ屢
 靜脉ノ鴛張スル地位ニシテ、所謂痔血、即チ痔疾
 ヲ發起スル者是ナリ

甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥

攝護叢 ク、プロ、ス、ク、テ、ハ、 間錯且ツ大積ナル、靜脉ノ
 羅網ニシテ、尿道ノ膜部、膀胱頸、攝護腺、及ヒ精囊
 ヲ圍擁シ、頻リニ膀胱叢ト交通シ、痔脉叢ト結合
 シ、遂ニ内腸骨、及ヒ陰具靜脉等ニ終ル
 子宮腔叢 ユ、テ、ロ、ワ、ジ、イ、ナ、 男子ノ攝護叢ニ均

乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥

シ、乃チ腔及ヒ子宮ヲ圍擁シ、卵巢及ヒ陰具靜脉
 ト相通ス、又子宮靜脉 ユ、テ、ロ、ワ、ジ、イ、ナ、 ノ扶助ニ由テ

甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥

内腸骨靜脉ト交結ハ此叢ノ靜脉、妊娠ノ間、頗ル
 膨大シテ、大積ナル、子宮洞ヲ造為ス、然レモ、其迂
 曲及ヒ經過ニ至ラハ、動脉ト同シカラス

乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥

膀胱叢 ウ、エ、シ、カ、ル、ス、 ハ、膀胱ヲ圍擁シ、殊ニ其底部
 ニ於テ著明ナリ、而テ攝護或ハ腔叢ト交通ハ此
 叢ヨリ、數條ノ靜脉ヲ起シ、以テ内腸骨靜脉ニ終

丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸、子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥

陰具靜脉 ウ、エ、シ、カ、ル、ス、 ハ、陰莖ノ深在動脉、及ヒ會陰ノ

動脈ニ伴行スル靜脈ヨリ成ル同名動脈ノ經過
ニ隨行シ攝護及ヒ痔脈叢ト交通シ内腸骨靜脈
ニ終ル此脈婦人ニ於テハ庭孔及ヒ會陰ヨリ同
比ノ起根ヲ取リ以テ脛叢ト交通ス
陰莖勃起組織ヨリ發起ノ靜脈ハ陰莖ノ深在動
脈ヲ副行スル處ノ靜脈ヨリモ巨大ニシテ且ツ
其經過數般タリ乃チ海綿體ノ靜脈ハ龜頭底ヨ
リ發出シ湊合シテ陰莖背靜脈トドレサレバ
スト為リ陰莖背溝ニ浴ヒ羞骨弓下ニ至テ三角
靱帶ヲ穿過シ分岐シテ二支ト為リ攝護叢ニ終

甲
ウトルサリスベニス

甲
ウトルサリスベニス

ル蜂窩體ヨリ發起ノ靜脈ハ陰莖下溝ヲ出テ其
外側ヲ廻リ陰莖背靜脈ニ交結シ延孔背靜脈
サレバトリスヲスハ其起根及ヒ經過共ニ陰莖
背靜脈ニ同シ而シテ脛叢ニ終ル
外腸骨靜脈エキムテレナレ
外腸骨靜脈ハ股靜脈ノ連幹ニシテ下肢ヨリ血
液ヲ湊合ス其始端ハホレパレト靱帶ノ下方ニ
於テ同名動脈ノ内側ニ起リ其後側ニ上リ内腸
骨靜脈ト會合シテ普通腸骨靜脈ト為ル此脈其
始端ニ於テ廻旋動脈及ヒ上腹動脈ニ副行スル

甲
ウトルサリスベニス

乙
ウトルサリスベニス

甲、ホ、ブ、リ、テ、

乙、ウ、ヘ、モ、ラ、リ、ス
全、ウ、ク、リ、ユ、ラ、リ、ス

二條ノ静脈ヲ領セリ、又、
 下肢深在静脈ロ、リ、ク、ベ、エ、キ、ス、オ、フ、セ、イ、
 下肢深在静脈ハ、深在動脈ニ、親ク順次ニ膝膈動
 脈及上肢動脈ノ他ハ、各動脈、皆十二條ノ伴行静
 脈ヲ有ス、其間又、別ニ横支ヲ以テ互ニ交結ス
 膝膈静脈ホ、ブ、リ、テ、ハ、前後小腿動脈ニ伴行ス
 ル静脈ノ會合シテ成ル者ナリ、其對動脈ノ後ニ
 位シ之ト伴行シ大内送筋ヲ穿過シ、乃チ股静脈
 ノ名ヲ得タリ、
 股静脈ウ、ヘ、モ、ラ、リ、スハ、初メ同名動脈ノ後部ニ在リ

甲、ウ、サ、ハ、ナ、ハ、ル、ハ
全、ウ、サ、エ、キ、ス、テ、ル、ナ

上行ノ間ニ於テ漸次ニ其内側ニ偏タヨリ、上テ
 一ノハ、ル、ト、鞅、帶、ニ、達、シ、外、腸、骨、静、脈、ト、為、ル
 下肢淺在静脈ウ、ヘ、モ、ラ、リ、スハ、
 下肢淺在静脈ハ、其位列、允テ叢状ヲ為セリ、其布
 置、皮膚ニ関涉ス、其他ハ、上肢ニ於テ、論スルカ如
 シ、爰ニ、主要ナル長短ノ二幹アリ、是レ血液ヲ淺
 表ノ静脈ヨリ湊合シ、深在ノ主幹ニ輸送スル者
 ニシテ、共ニ母静脈ト稱ス、
 短母静脈ウ、サ、ハ、ナ、ハ、ル、ハハ、足背ノ外部ヨリ、數支
 ヲ以テ起リ、外踝ノ後部ヲ過キ、脚背ニ上リ、二頭

腓腸筋ノ頭間ニ陷没シ膝膈靜脈ニ終ル此脈淺
表ノ數靜脈ヲ以テ足ノ外部脚背及ヒ其外部ヨ
リ血液ヲ湊合ス尚才數支ヲ以テ頻リニ長母靜
脈ニ交通ス
長母靜脈 ロシ、ベ、ト、ハ、ノ 八、前者ヨリモ大積ニシ
テ足ノ後内側ノ數支ヨリ起リ内踝ノ前部ヲ過
キ、小腿骨ニ沿ヒ膝蓋ニ達シ後方ニ廻リ次ニ股
ニ上リ母孔ヲ穿通シ股靜脈ニ終ル此脈經過中
ニ足部内側ノ靜脈脚ノ諸靜脈股ノ總靜脈外陰
具靜脈及ヒ許多ノ腹部靜脈等ヲ領セリ

甲
文廿八、十、ロ、ン、ガ
文、サ、イ、ン、テ、ル、ナ

肺靜脈 ポルモナ 八、四個ノ短ニシテ大ナル幹ナリ、而テ其

二幹ハ各肺ヨリ起リ鮮紅ノ血液ヲ心藏ニ輸送
ス即チ左ノ如シ

右肺靜脈 ライ、ト、ポ、ル、ス、モ、ナ 八、左側ノ者ヨリモ長
久而テ右肺ノ根蒂ヨリ起リ右肺動脈下ヲ過キ、
上大靜脈右房及ヒ大動脈ノ後部ニ至リ、左房ニ
終ル

左肺靜脈 リ、フ、ト、ポ、ル、ス、モ、ナ 八、左肺ヨリ起リ下行
大動脈ノ前面ヲ過キ左房ニ終ル

甲 リンベント、システム

水脉系 リンベント、システム ハ、尿管、腺状体、及ヒ含有ノ水

液ヨリ成レリ、其尿管ヲ **水脉** リンベント、システム ト云ヒ、

腺状体ヲ **水脉腺** リンベント、システム ト云ヒ、之ヲ概シテ、

リンハ、多クト稱シ、而テ尿管ト、腺状トニ含有ス

ル液ヲ **水液** リンベント、システム ト稱ス

腸ノリンハ、多クヲ **乳糜管** リンベント、システム ト云ヒ、其内位

ニ、充含ノ液アリ、之ヲ **乳糜** リンベント、システム ト稱ス

水脉 リンベント、システム ハ、凡テ乳養動物、鳥魚爬虫ニ於

テ存在スレド、下等ノ動物ニ於テハ、缺込セリ、而

乙
リンベント、システム
リンベント、システム
リンベント、システム
リンベント、システム

テ其所在ハ、血液領収ノ器械、及ヒ組織ニ於テ殊
ニ目撃セリ、然レド、腦脊髓ノ實質、及ヒ眼球内耳
ニ於テハ、未タ之ヲ見ス、尙才胞衣、及ヒ其被膜ニ
於テモ、亦然リ

水脉系ハ、血脉系ノ附属ニシテ、諸器及ヒ諸組織

ヨリ、水液ヲ聚収ス、蓋シ此液ハ、血漿ノ滲漏分ニ

シテ、組織ノ不用分ナリ、而テ腸ニ於テハ、食物ヨ

リ、榮養分ヲ吸収ス、斯ク受納セシ液ハ、小管ヨリ

漸次ニ大管ニ輸送シ、其經過中ニ、數個ノ水脉腺

ヲ通行シ、遂ニ二条ノ大幹ニ湊合ス、是レ所謂胸

管右水脉管ニシテ、水液ヲ静脈ニ注輸スル者ナ
 リ、大ニ六部ニ分ル。其深在ノ列ハ同所ノ
 水脉系ハ、深淺ノ二列アリ、其深在ノ列ハ同所ノ
 血脉ニ隨行シ、淺在ノ列ハ、皮下及ヒ諸器ノ被膜
 下ニ彌蔓ス。是レハ、静脈ノ者ノ如ク、水液ノ逆
 主要ノ水脉ハ、其數、動靜二脉ヨリモ多シ、然レモ
 其形状甚タ微細、且ツ纖長ニシテ、宛モ絲ノ如ク、
 而テ透明ナリ、故ニ色素ノ溶液ヲ注セサレハ容
 易ニ辨知ス可カラズ、而テ其管内ニ許多ノ瓣ヲ
 具有ス。此瓣ノ構造ハ、静脈ノ者ノ如ク、水液ノ逆

流ヲ防遮シ、且ツ其所在毎ニ寸隔ニ一對アリテ、
 其後部ニ小灣アリ、故ニ水脉膨脹スルハ、累々
 トシテ、連珠ノ状ヲ呈セリ。此レハ、静脈ノ者ノ如ク、
 起根ノ形式ハ、甚タ不明ナリ、是レ其細微ニシテ、
 透明ナルカ故ナリ、且ツ色素ノ溶液ヲ注射スル
 モ、大支ノ衆瓣、對向遮閉シテ、其流注ヲ障防スル
 ニ由ルナルヘシ、然レモ、察思スルニ、其細管、血管
 ノ毛細管ト、間錯シテ、緻網ヲ成シ、發起スルニ似
 タリ、然レモ、兩細管、互ノ交通ハ、有ラサルナリ、腸
 ノ毛茸ニ於テハ、水脉細管ノ頭、閉塞シテ、一個ノ

棒状、即千雷木ノ如キ管ヲ以テ、發起スルヲ顯然
タリ、而テ水脉細管ハ、凡テ血脉細管ヨリモ、稍ヤ
大ニシテ、亦夕辨ヲ具有セス

總テ主要ノ水脉管、大幹ニ達スルノ間處々ノ幽

窩按スルニ、胸腔ニ、適在窩按スルニ、胸腔ニ、適在及ヒ空洞按スルニ、胸腔ニ、適在

ノ水脉腺ヲ透過スルヤ、彼ノ水脉腺ニ

近ソク處ヨリ、分歧細別シテ、其腺ニ入り、又夕會

合シテ大支ト為リテ、他側ニ出ス、故ニ透入ノ支

ヲ、**輸入管**左スセルト、ト稱ス、透出ノ支ヲ、**輸出管**

左スセルト、ト稱ス、而テ輸出管ハ、輸入管ニ比ス

甲
ハ、サ、イ、ン、ヘ、レ、ン、チ、ア
乙
ハ、サ、イ、ン、ヘ、レ、ン、チ、ア

レハ、巨大ニシテ寡少ナリ

水脉ノ構造ハ、血管ニ似タリ、殊ニ静脈ニ類ス、コ

ルリケル氏ノ説ニテハ、其外層ニ於テ、筋織組ノ

縦小束ヲ含有スト云ス

水脉腺グリナンハ、適硬ナル、淡紅ノ体ナリ、其

形状、壓平セシ圓球、或ハ楕圓球ニシテ、麻子大、或

ハ扁桃大ニ至リ、其位置、凡テ大血管ノ經過ニ隨

テ散布シ、胸腹内ニ會簇ス、蓋シ頸、腋窩、鼠蹊、肘窩、

膝窩ニ於テモ亦然リ

水脉腺ノ構造ニ至テハ、未夕詳明ナラス、然レモ

甲
グリナンハ、適硬ナル、淡紅ノ体ナリ、其
乙
グリナンハ、適硬ナル、淡紅ノ体ナリ、其

輒今ノ考究ニ由テ之ヲ觀ルニ、數多ノ胞、會簇シ
 テ結成セリ、而テ其胞、輸入管ノ末端ト、輸出管ノ
 起端ト、相ヒ連繫シ、以テ互ニ交通ス。斯ノ如キ、數
 多ノ胞、血管富有ノ結締織中隔ノ間隙ヲ填充ス、
 而テ每胞ノ性体ハ、單胞腺、及ヒ攢簇腺ニ類似ス、
 是レ疑ラクハ、水液球ノ基元ナラン

甲
 リンハ
 全ホワイト、ブルード

乙
 リンハ、グロビュレス
 全ホワイト、コル、ゴスクルス

水液^甲ハリンノ性質ハ、理化ニ學的ニ於テハ、殆ト血
 漿ニ齊シ。此液ハ、水脉腺ニ通過ノ后ハ、夥多ノ小
 体ヲ受ク、之ヲ水液球^乙ト稱ス。其球、頗
 ル至微ノ顆粒含核セルニシテ、血液ノ白血球ニ

似タリ。又其性体ニ於テハ、水脉腺ノ胞形ノ含核
 セルニ均シ。此ニ由テ、之ヲ觀レハ、水脉腺ヨリ、由
 來スル者ナラン。腸ノ水脉、未タ腸間膜腺ニ至レ
 サル前部ニ於テ、同種屬ノ數球ヲ含有セリ、是レ
 疑ラクハ、單胞腺、及ヒ攢簇腺等ヨリ、發生シ來レ
 者ナラン

十數年前、醫林ニ公行セシ、窠兒東戎私人ノ考究
 ニ從ヘハ、水液球、溶解シテ、含有ノ核、血球ニ化成
 スル者ナリト。此說、未タ究メサル所アリト雖モ、
 水液球ノ經常ニ血中ニ灌流シ、以テ赤血球ノ原

甲カイルユス

基ヲ造成スルニ於テハ、此說確然タリ
 乳糜ルカイルハ、腸管ノ水液ニシテ食物ヨリ吸收セ
 ル榮養分ノ混セシ者ナリ、殊ニ許多ノ脂肪球、浮
 游シテ、其色、尋常乳白ナリ、是故ニ腸ヨリ胸管ニ
 輸送スルノ水脈ヲ乳糜管ラルクステト稱セリ

水脈系幹

水脈系ハ、主要ナルニ幹アリ、其一ハ、長且ツ大ニ

シテ、**胸管**ダトラシクト稱ス、他ハ、最モ小ニシテ、**右**

水脈管ライト、ソントト稱ス

胸管ダトラシクハ、大動脈ト、下大靜脈ノ間ニ位シ

甲
ドクモス、トラシキユス
 全
ド、ロリヘル
 全
ド、リンハチキユス、シ
 全
ニス、テール

甲
レセ、フトキユリユキリ
 全
レ、ベキユイキ
 全
サツキユリス、テクキユス

第二ノ腰椎ノ前面ニ於テ、二條ノ腰水脈幹ト、腸
 水脈幹ト、會合シテ起ル者ナリ、而テ其腰水脈幹
 ハ、骨盤及ヒ下肢ノ水脈ヨリ湊來シ、腸水脈幹ハ、
 内臓ノ水脈ヨリ起坐ス

腸水脈幹ノミ、又ハ腰水脈幹ノ一條或ハ二條ト
 共ニ聚合シテ、長圓ナル廣脹部ヲ造為セリ之ヲ

乳糜囊レセ、ゼイ、カイルト稱ス、此囊ノ大サ、時々

變換スレ、概子其長徑ハ、一「インチ」乃至二「イン

チ」其幅度ハ、一「インチ」ノ四分一タリ

胸管生起ノ後、横膈ノ大動脈孔ヲ穿過シ、脊椎柱

ノ前面ヲ上リ、大動脈ト、奇靜脈ノ間、即チ食道ノ後部ニ在テ、背椎第四片ノ處ヨリ、左側ニ倚リ、大動脈弓ノ後部ヲ過キ、食道ト、左鎖骨下動脈ノ間ヲ上リ、頸椎ノ第七片ニ達シ、前外下方ニ向テ鈎曲シ、乃チ左鎖骨下靜脈ト、内頸靜脈ノ結角ニ終ル。蓋シ此處、一對ノ瓣ヲ具シ、以テ靜脈血ノ進入ヲ抗拒セリ。

胸管、起根ニ於テハ、殆ト鷲管大ナリ、然レモ、上行經過ノ間、漸次ニ狹窄シ、殆ント真中ニ至テ、再び擴張ス、而テ此擴張、稀レニ甚々著明ナルアリ。

甲
ドリン六千キ
ドクキムスト
スミノル

又其經過、真直ナラス、稍ヤ迂曲ス、或又其中間、細分シテ、再ヒ結合スルアリ、管内ニ數瓣アリ、殊ニ上部ニ多シ、然レモ、水脈ニ比スレハ、一般ニ寡ナリ。

胸管ハ、横膈以下、体ノ諸水脈、及ヒ左側ノ胸頭、頸等ノ水脈、及ヒ左上肢ヨリ、水脈ヲ領セリ。

右水脈管ライイト、リンハ

右水脈管ハ、其丈ケ殆ト半インチ其幅殆ト一クイニ、天胸管ト同式ヲ以テ、体ノ右側ニ終ル。此管、胸頭、頸ノ左側、及ヒ右上肢ヨリ、諸水脈ヲ領

頭頸水脉

頭頸ノ水脉ハ、各處ヨリ起リ、群腺ノ屯聚ニ終ル、而テ是ヨリ輸出管ヲ以テ、次列ノ屯聚ニ入り、斯ク再三反覆シテ、遂ニ一二ノ幹ト為リ、頸根ニ於テ胸管及ヒ右水脉幹ニ終ル、

頭腔水脉

腦實質ニ於テハ、未タ一條ノ水脉ヲ目撃セズ、然レモ薄腦膜ニ至テハ、頗ル許多ナリ、其經過ハ、主要ノ静脉ニ隨行シテ、動静二脉ト偕モニ、頭腔ノ

甲 グシラオキヒタレス

乙 グシラオウキユリス

丙 グオウキユリスア
ンテリオル

孔竅ヲ外出セリ

頭顱外部ノ水脉

後頭水脉ハ、頭ノ後部ヨリ起來シテ、後頭腺オキヒタ

久ル立スセルスハッキ及ヒ耳後腺オキヒタ

終ル、耳後腺中、最モ小ナル者、四個或ハ五個、乳頭

部ノ近傍ニ於テ、胸骨乳頭筋、及ヒ僧帽筋上ニ散

布ス

顱額水脉ラムポラールンハハ、頭側ヨリ起來シ

テ、耳前腺アキランテリオル、オウリニ終ル、此腺、二個或

ハ三個アリ、耳前ニ於テ、耳下腺上ニ散布ス

田
グソアヤキシラリス

乙
グマキシラリス、イ
ンテルト

顔面水脉

淺在顔面水脉

ソ、ハ、額、眼、鼻、唇

頰及ヒ腮ヨリ起來シテ

下腭水脉線

ハ、下腭枝トノ間ニ位ス

テ、内腭腺

其數、五個乃至十個アリ、咽頭ノ側壁、即チ耳下腺

ト、下腭枝トノ間ニ位ス

窩、鼻腔、口蓋、口壁、咽頭ノ上部、耳頭腔ヨリ起來シ

テ、内腭腺

其數、五個乃至十個アリ、咽頭ノ側壁、即チ耳下腺

ト、下腭枝トノ間ニ位ス

甲
グセルビカリス、
ペルヒギールス

乙
プレキス、ジユヤラリ
ス、インテルニユス

舌水脉
ハ、舌ノ動靜ニ脉ニ隨
行ス、其經過中ニ、三個或ハ四個ノ腺ヲ透通セリ

頸水脉

淺在頸水脉

前後ヨリ起來シテ、後頭、耳後、耳前、及ヒ下腭等ノ

水脉腺ノ輸出管ト共ニ、群聚シテ、淺在頸腺

ハ、六個、頸ノ上部、胸骨乳頭筋上、或ハ其後縁ニ布

置ス

深在頸水脉

深在頸水脉

甲
トロンキユスハジギ
ラリス

腺鏈ニシテ、内頸静脈、及ヒ頸動脈ノ經過ニ順列シ、腋窩ノ水脈ト交通ス。其經過中ニ、耳前、下腭、内腭舌、及ヒ淺在頸等ノ水脈腺ノ輸出管ト、喉頭、咽頭、甲状腺、氣管、食道、頸筋等ノ水脈ヲ領セシメ、同交深在頸水脈腺ノ輸出管、湊合シテ、**頸水脈幹**トシテ、**トロンキユス**ト為リ、其側ニ應ジテ、胸管、或ハ右水脈管ニ終ル。

上肢及ヒ胸外部ノ水脈

上肢ノ水脈ハ、深淺別ニ五列アリ、各動靜二脈幹ノ經過ニ隨行セリ。

淺在水脈ソハハチルヒシヤルノ主要ナル者ハ、

上肢ヲ上行シテ、内側ニ向ヒ、而テ多クハ、上臂、腦

二静脈ノ經過ニ隨行ス。

一二ノ水脈、内髁ノ前面ニ於テ、水脈腺ヲ透過ス。

其他殆ト皆、十腋窩ノ下列水脈腺ニ聚合ス。又或

ル他ノ水脈ハ、腦静脈ト伴行シ、肩胛水脈ト共ニ、

鎖骨下ニ於テ、腋窩水脈腺ニ會終ス。或ハ頸腺ト

交通スルヲアリ。

深在水脈クシハチルヒシヤルハ、動脈及ヒ伴行静脈

ノ經過ニ隨行シ、肘肱部ニ於テ、三個以上ノ水脈

甲 アキシラリス

腺ヲ透過シ、腋下水脉腺ニ終ル
 胸部ノ淺在水脉ルソペルヒギルハ、上腹部及ヒ胸
 ノ皮下ヨリ起レリ而テ其深在水脉スジヒルハ、
 乳腺、胸筋、及ヒ近傍ノ諸筋ヨリ起テ、多クハ、外上
 方ニ向ヒ、腋窩水脉腺ニ會終ス、蓋シ其中一二ハ
 鎖骨下腺ニ終ル
 腋窩腺アキシラリスハ、其數八個ヨリ十二個アリ、
 其位置、腋窩ノ弛縱蜂窩織、及ヒ脂肪内ニ包在ス、
 而テ上肢、及ヒ胸外部ノ諸水脉ヲ領セリ、其廣張
 ハ、腋窩ノ下部ヨリ、鎖骨ニ達シ、深頸水脉腺ト交

甲 トロンキユスリンハ
エキユス、シエバグラヒス

通ス是ヨリ輸出管ヲ以テ、鎖骨下静脉ニ隨行シ、
 遂ニ鎖骨下水脉幹ソクハラビアンクニ結合
 ス此幹ハ胸管或ハ右水脉管ニ終ル者ナリ

胸腔水脉

肋間水脉インハンチルクススタルハ、胸腹、横膈、胸
 膜、背筋、及ヒ脊髓管ヨリ起リ、同名静脉ノ經過ニ
 順列シテ、肋骨頭ノ近傍ニ至リ、十五以上ノ肋間
 腺インシテラコスタヲ通過ス而テ是ヨリ輸出管
 ヲ以テ、多クハ胸管ニ終ンリ
 後縦膈腺ポステリオルハ、兩側ノ肋間腺

乙 ガインテルコスタリス

ダソジアスキタボス
テリオル

間ニ位シ其腺ト互ニ交通ス其數殆ト十二個ニシテ、横膈、心囊、及ヒ食道等ノ水脉ヲ領セリ此腺ヨリ輸出ノ管一半ハ胸管ニ終リ、一半ハ氣管支及ヒ水脉腺ニ終ル

甲
インテリナルルママリ
トリンハチクウセゼリス

乙
グマジアスチナア
ンテリオルス

前縦膈水脉アンテリオル、ルソジアスチナハ胸腹ノ前壁横膈心心囊膈腺ヨリ起リ又夕肝ノ上面ヨリ起リ肝繫靱帯ヲ穿過シ、共ニ皆十前縦膈腺アンテリオル、ルソジアニ至此而テ其輸出管ハ胸管或ハ右水脉管ニ終レリ
前縦膈腺ハ其數殆ト二十個ニシテ、内乳血管ノ

経路、心囊ノ上、及ヒ心ノ底面ヨリ起リシ大血管ノ前面ニ位ス
肺水脉ハボルモナリト、ルソジハ、深淺ノ二列アリ、其淺在ノ列ハ、肺胸膜下ニ在テ、間錯網様ヲ為シ、肺根ニ向ヒ、深在ノ水脉ト會合ス其深在ノ列ハ、肺血管、及ヒ氣管支ノ支別ニ隨テ徑過シ、遂ニ數個ノ細小ナル肺腺ハボルモナリト、ルソジヲ通過ス氣管ノ極部、氣管支、及ヒ肺根ニ於テ、二十個以上ノ氣管支腺ハボルモナリト、ルソジアリ、此腺ハ、肺、氣管支、及ヒ氣管、

甲
グ、ホルモニカ

乙
クウエサリナ

心臓、食道等ノ諸水脉ヲ領セリ此腺ハ、分外ニ大

甲
トロンキヌスブロン
コメジアスチナ

十、且ツ嬰兒ノ皮ハ其色及ヒ堅實、他處ノ水脉
 腺ニ異ナラスト雖ヒ生長スルニ及テ漸徐ニ灰
 白ヨリ遂ニ黒色ニ變ス、蓋シ是レ黒素ノ細分子
 ノ分着ニ由ルナルヘシ、又屢石灰或ハ結核ノ分
 着部ト為レリ其輸出管ハ左側ニ於テハ、胸管ニ
 終リ、右側ニ於テハ、共ニ湊合シテ、甲氣管支縦隔幹
 チ、乙右側ノトメシアシト為リ、無名靜脉ノ後部ヲ上
 リ、右水脉管ニ結合ス、
 下肢及ヒ骨盤水脉

淺在水脉 乙ソハベルヒシアルスハ、足背ヨリ起リ、

田
ダポプリデー

乙
グインゴイナリス
ヌヘルヒシアリス

長母靜脉ノ經路ヲ上行シ、淺在鼠蹊腺ニ終ル蓋
 シ足蹠ヨリ起ル者アリ、短母靜脉ニ伴行ス、其二
 部ハ、足背ノ者ニ交結シ、他ノ一部ハ、膝膈腺ニ終
 レリ

深在水脉 乙クダスセルスハ、甲同所ノ血管ニ隨行

シ、二個乃至四個ノ膝膈腺 乙ホダブリテゾヲ穿過シ、

遂ニ深鼠蹊腺ニ終レリ

淺在鼠蹊腺 乙ソイナルヒシヤラズンハ、其數六個乃

至十二個ニシテ、股筋莖ノ母孔ニ位シ、外方ニ向

ヒ、鼠蹊ニ廣布ス而テ下肢上行淺在水脉、下腹

甲
グインゴイナール
ス、プロヒンダー

乙
グイリクク、エキマ
テルナ

丙
グイリクク、エキマ
テルナ

部、腰、臀ノ淺在水脉、及ヒ陰莖、陰囊ノ外皮或ハ陰
 唇、延孔等ノ水脉ヲ領セリ
 深^甲在鼠蹊腺ナジト、ヒズ、グインゴズイハ、其數二個或ハ三
 個ニシテ、股血管ノ上ニ布置ス而テ、下肢深在水
 脉ヲ領シ、且ツ淺在腺ト交通ス
 鼠蹊腺ノ輸尿管ハ、股弓下ヲ上行シテ、外腸骨腺
エキス、テルナ、ズ、イニ終ル、其腺數ハ六個以上ニ
 シテ、纒々鏈狀ヲ為シ、外腸骨血管ノ經過ニ布置
 ス、而テ尚オ腹内ノ前側部ヨリ、水脉ヲ受ケリ
 内腸骨腺丙 リ、イン、グ、テルナ、ズ、イハ、會陰、陰莖、延孔、或

甲
グロンバールス

ハ陰囊或ハ陰唇ノ後部、膀胱攝護腺、精囊、或ハ腔
 子宮臀部ノ諸筋、直腸等ノ清水脉ヲ領収セリ、而
 テ其腺數ハ十二個以上ニシテ、骨盤ノ側部、内腸
 骨血管ノ周圍ニ布置シ、薦骨ノ前面ニ於テ他側
 ノ同腺及ヒ外腸骨腺ト交通ス
 腹腔水脉
 腰腺甲 グロンバールス、ハ、其數殆ト二十五個ニシテ、脊
 柱及ヒ大血管ノ各側、横隔ノ起根、兎筋、及ヒ腰方
 筋ノ上ニ布置シ、他側ノ同腺ト頻リニ交通シ、而
 テ内外腸骨腺ノ輸尿管ハ、其他、腰、腎、輸尿管、副腎

甲 トロンキユスリンニチ
キユスロニバリス

及ヒ罌丸或ハ卵巢等ノ諸水脉ヲ受ケリ
 腰腺ノ輸出管ハ腹部ノ各側ニ於テ共ニ湊合シ
 テ腰水脉幹ハロンクハトロンクハト為レリ又屢細小
 ノ數支ト為リテ胸管或ハ乳糜囊ニ終ルヲアリ
 胃水脉リンハオスゼイストマクハ胃ノ血管ニ隨行
 シ細小ノ數腺ヲ經過ス而テ小灣及ヒ大灣ノ右
 側ヨリ來ル者ハ腸間膜腺ニ終リ左端ヨリ來ル
 者ハ脾水脉ニ終ル
 小腸ノ水脉ハ常ニ乳糜管ラルクステト稱ス是レ其
 充滿セル乳糜ノ為ニ乳白色ヲ呈スルカ故ナ

乙 ハッサラクテ
ハキリヘラ

甲 グメセンテリカ

リ而テ腸管ヨリ起リ腸間膜層ノ間ニ進ク一
 三十餘ノ腸間膜腺クメセンテリスヲ通過ス此腺
 不正ノ三列ニ位ス其第一列ハ最モ小腺ニシテ
 其數最モ許多ナリ第三列ハ最モ大腺ニシテ其
 數鮮シ其輸出管ハ内臓腺ニ終レリ
 十個ノ結腸網腺グラソコリスヲ通過シ多クハ上
 腸間膜腺ニ終ル而テ下行結腸ノ大部分ヨリ來
 ル者ハ左腰腺ニ終レリ
 脾腺ノ水脉ハ脾靜脈ノ經過ニ隨行シ細小ノ數
 腺ヲ通過シテ内臓腺ニ終レリ

乙 グメソッコリカ

腺ヲ通過シテ、内臓腺ニ終レリ

肝上面ノ水脉オリンハサク、ウラス、オス、セイ、リ

ルハ、既ニ示スカ如ク、多ク拘舉靱帯ヲ穿過シテ、

前縦隔腺ニ交結ス而テ下面ヨリ來ル者、及ヒ深

在水脉ジセルプ、ウハ、鮮小ノ肝腺ヲ穿過シ、肝ノ横

溝ヲ發シ、胃ノ小灣ノ水脉ト湊合シテ腸間膜腺

ニ終ル

内臓腺ガクフリンズク、六、其數十五個ヨリ、二十個ニ

シテ、十二指腸、脾ノ後部、大動脈内臓軸、上腸間膜

動脈、及ヒ門脈ノ上ニ位シ、各側ノ腰腺ト交錯ス

甲
トロンキユスリンハチ

甲
トロンキユスリンハチ
キス、インテスチナリス

其輸出管ハ、共ニ會合シテ腸水脉幹インテスチ

ハチククトト為リ、或ハ屢、二個以上ノ小幹ト為テ、

乳糜囊ニ終レリ

解剖訓蒙卷之十二終

啟蒙義舍藏版

發兌書肆

大坂心齋橋通唐物町

淺井吉兵衛

發兌書報

新井古兵衛

大慈心齋蘇區書報印

發兌書報
新井古兵衛

